

令和4年度 「地域住民福祉活動情報交換会」報告

葛飾区では区内 19 の連合町会を基礎エリアとして小地域福祉活動推進組織が設置され、地域の実情に応じた取り組みが行われています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの地区で活動を自粛せざるを得ない状況となっていますが、コロナ禍においてもこれまで築かれてきた「地域のつながり」を保ち続けるために、活動方法の見直しや工夫をしながら活動の継続・再開がされています。

そこで、「ウイズコロナに向けた小地域福祉活動」をテーマに、立石地区・青戸地区からの事例報告を通して改めて活動が果たしている役割や意義を考えました。また、講演より「新しい地域活動のスタイル」への理解を深め、今後の活動に役立てる機会として開催しました。

1. 日 時 令和 5 年 3 月 24 日(金) 午後 2 時～3 時 30 分

2. 会 場 ウェルピアかつしか 1 階

3. 内 容 ・事例報告(立石地区・青戸地区) ・講演「新しい地域活動のスタイル」



事例報告 *くわしくは当日資料をご覧ください

立石地区「立石地区の小地域福祉活動への取り組みについて」

報告者 澤目 和子氏

身近な場所で「密」にならないよう、少人数で集まり、楽しめることができたという思いから立石地区を4つに分け、“サロン活動「タッチ会」”をスタートしました！



青戸地区「イベント活動に代わって“身近な地域”でサロン活動を実施」

報告者 小林 隆猛氏

これまでのイベント型の活動から、5つの班が持ち回りで「サロン活動」を行う活動に転換して再開しました。集い交流館や町会会館など、自宅に近い会場を活用しています！



講演「新しい地域活動のスタイル」 板倉 香子氏 (洗足こども短期大学 准教授)

ウイズコロナの地域活動では、様々な工夫・変化がなされています。「方法の見直し」「活動の見直し」「新たな課題への対応」等を柔軟に行うとともに、“何のためにやっているのか”を確認しながら継続・再開していくことが重要です。そして、活動している人自身が楽しみながら活動を行うことが大切です！



令和4年度
地域住民福祉活動情報交換会

ーウィズコロナ時代の地域福祉活動について考えるー

本日の流れ

開 会

事例報告

1. 立石地区 立石地区の「小地域福祉活動」への取り組みについて
報告者 澤目 和子 氏
2. 青戸地区 イベント活動に代わって「身近な地域」でサロン活動を実施
報告者 小林 隆猛 氏

講 演

「新しい地域福祉活動のスタイル」
講 師 洗足こども短期大学 准教授 板倉 香子 氏

閉 会

講師紹介

板倉 香子 氏

(学校法人洗足学園 洗足こども短期大学 准教授)

- ・ 明治学院大学大学院社会学研究科社会福祉学博士前期課程修了、修士（社会福祉学）
- ・ 前橋市社会福祉協議会
- ・ 港区政策創造研究所

などを経て、現在、洗足こども短期大学准教授

事例報告

「ウィズコロナに向けた小地域福祉活動の取り組み」

立石地区の「小地域福祉活動」への取り組みについて

報告者 澤目 和子



1. 「小地域福祉活動立石」について

2. これまでの活動 <コロナ前>

3. コロナ禍での活動

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

1. 「小地域福祉活動立石」について（推進組織の紹介）

立石地区自治町会連合会

立石地区民生委員児童委員協議会

“小地域福祉活動立石”

（委員数：15名）

高齢者総合相談センター立石

立石地区センター

平成28年度～

地域住民の方々が、身近な場所で気軽に参加できる
場所づくりを目的に活動に取り組んでいます

1. 「小地域福祉活動立石」について

2. これまでの活動 <コロナ前>

3. コロナ禍での活動

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

2. これまでの活動 <コロナ前>

連合町会の行う「高齢者慰安会」を活用した取り組み（PR活動）

- 活動場所 シンフォニーヒルズ、ウィメンズパル、立石地区センター別館
- 対 象 地区内の高齢者
- 実 施 年1～2回
- 実施方法 小地域福祉活動や民生委員・児童委員のPR活動を実施
高齢者総合相談センターによる「体力測定」「健康診断コーナー」



1. 「小地域福祉活動立石」について

2. これまでの活動 <コロナ前>

3. コロナ禍での活動

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

3. コロナ禍での活動 —工夫しながら活動が行われるまで—

1 行事の中止

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「高齢者慰安会」が中止に・・・

2 行事の内容が変更される

- 町会ごとに「記念品を配る」取り組みに変更されました
- 記念品に民生委員・児童委員活動のチラシを同封しました

3 外出自粛による影響

- 「家に籠りがち」「近所の人たちとの会話が少ない」高齢者が増加・・・

4 「サロン活動」の実施

- 身近な場所で「密」にならないよう、少人数で集まり、楽しめることができれば！

第1班「タッチ会」スタート

サロン活動
みまなさんの居場所
心をつなぐ場所

3. コロナ禍での活動 —「サロン活動」—

「サロン活動 タッチ会」

- 活動場所 立石地区センター別館 多目的室など
- 対 象 地区内の高齢者
- 内 容 「健康体操」「おしゃべりタイム」「手話ソング」など30分の内容を3つ



3. コロナ禍での活動 —工夫したこと—

■ 「勉強会」の実施

第1班を立ち上げる前に「勉強会」を実施しました。

すでに活動を行っている金町地区と奥戸地区の委員を招き活動内容などを教えていただきました。



■ 立石地区を4つに分ける

「サロン活動」を行うにあたり、立石地区を4つに分けました。

委員を近隣町会ごとにグループ分けし、1年に1ヶ所ずつサロンを立ち上げることにしました。

3. コロナ禍での活動 —注意していること—

■ 感染症対策

間隔をあけて座ってもらう

参加者の氏名・住所・町会の把握、検温・手指消毒・マスクの着用、換気を実施しています。

30分ごとに3つの内容を用意し、長時間にならないよう工夫をしています。

■ 委員同士、納得するまで話し合う

担当する委員同士が意見を出し合い、全員が納得できるまで話し合いました。



3. コロナ禍での活動 —よかったこと・課題だと感じること—



よかったこと

コロナ禍の中、令和3年度にスタートした第1班“タッチ会”は何とか年1回ずつ開催ができました。
毎回参加した方々に喜んでいただき、担当委員も令和5年度は回数を増やしたいと張り切っています。



課題と感ずること

今は委員が張り切って活動をしてきています。
これから長期的に行う活動なので、委員のモチベーションが保てるか気掛かりな面もあります。

1. 「小地域福祉活動立石」について
2. これまでの活動 <コロナ前>
3. コロナ禍での活動
4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて ―今後の展望―

✓ サロン活動をはじめて日が浅いので、これから地域の方々にどれだけ周知できるのか？この活動をどこまで理解してもらえるのか？

私たち委員が試されていると思っています。

✓ 今は高齢者を対象に行っていますが、この活動がスムーズに、また、活発にできるようになったら、若い方々や乳幼児を抱えたママたちの憩いの場になればと考えています。

イベント活動に代わって「身近な地域」でサロン活動を実施



 アイリス
ほほえみの会

報告者 小林 隆猛



1. 「アイリスほほえみの会（青戸地区福祉活動）」について

2. これまでの活動 <コロナ前>

3. コロナ禍での活動

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

1. 「アイリスほほえみの会」について（推進組織の紹介）

青戸自治町会連合会

青戸地区民生委員児童委員協議会

まちづくり懇談会
福祉厚生部会

“アイリスほほえみの会”

（委員数：34名）

青戸地区センター

平成23年度～

“安心して暮らせる地域のきずな作り”を目的に、イベント等を開催し、
友達作りや外出のきっかけとなるような活動を行っています

1. 「アイリスほほえみの会」について

2. これまでの活動 <コロナ前>

3. コロナ禍での活動

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

2. これまでの活動 <コロナ前>

「青戸地区福祉活動イベント」の実施

- 活動場所 青戸地区センター ホール
- 対象 青戸地区にお住いの方
- 実施 年2回
- 実施方法 「防災対策」「特殊詐欺対策」「健康づくり」等に関するイベントを実施
高齢者総合相談センター青戸の紹介コーナーを設け、参加者にセンターを周知
- 周知方法 チラシ作成 町会掲示板 口コミ



1. 「アイリスほほえみの会」について

2. これまでの活動 <コロナ前>

3. コロナ禍での活動

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

3. コロナ禍での活動 —工夫しながら活動が行われるまで—

1 緊急事態宣言の影響

- 会場が使用できなくなる・・・

2 感染リスクを考慮

- スタッフ・参加者が高齢であるため再開を延期しました

3 外出自粛による影響

- 人との関わりが減ってしまったことで「フレイル」の進行や「孤立」への不安がありました

4 さらに住居に近い会場で再開を！

- 時間の短縮、人数の制限などの工夫を行い、“集い交流館”や“集会所”を活用して活動を再開しました

年1回はこれまでのようなイベントを実施

3. コロナ禍での活動 —「サロン活動」—

「サロン活動」 —5つの班が持ち回りで実施—

- 活動場所 集い交流館・町会会館・集会所・地区センター等
- 対 象 地域にお住まいの方
- 内 容 班ごとに打ち合わせ行い内容を決定
白鳥班<1月> 早春の花の寄せ植え
西青戸班<3月> わがまちの自慢話をしましょう！

3. コロナ禍での活動 —「サロン活動」—

白鳥班 「早春の花の寄せ植え」



西青戸班 「わがまちの自慢話をしましょう！」



3. コロナ禍での活動 —工夫したこと—

■ イベント活動を年1回に変更

これまで年2回行っていたイベント活動を“年1回”に変更
年1回のイベント活動には、スタッフ全員が関わり運営します。



■ スタッフの負担軽減

5つの班に分かれて活動することで2ヶ月に1回サロン活動が実施される！
イベントと合わせると年6回の活動となるが、全ての活動にスタッフ全員が関わる
わけではないため、**スタッフの負担軽減**にもつながっています。

3. コロナ禍での活動 —注意していること—

■ 再開の順番はこだわらない

イベント活動ではなく「サロン活動」では何ができるのか？
内容は各班に任されているため、**準備のできた班から実施すること**としました。

■ 感染症対策

スタッフ・参加者ともに感染対策を怠らない
参加者の把握、検温、手指消毒、マスクの着用、換気の実施をしています。

3. コロナ禍での活動 —よかったこと・課題だと感じること—



よかったこと

参加者の皆さんの喜んだ顔を見られ、「顔を合わせて交流する」ことの大切さ「参加の場」が求められていることがわかりました。小地域福祉活動の目的が果たされているように感じました。

スタッフ間で活動の必要性・重要性を振り返ることにつながり、イベントでは得られなかった達成感や一体感を感じました。（意見もまとまりやすくなりました！）



課題と感ずること

当日の準備・片付けは、班員だけでは難しいためほか班員にも声をかける必要があると思っています。

チラシの枚数を減らしたことにより、チラシを利用したの広報活動が難しくなりました。

1. 「アイリスほほえみの会」について

2. これまでの活動 <コロナ前>

3. コロナ禍での活動

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて

4. ウィズコロナの小地域福祉活動に向けて —今後の展望—

- ✓ コロナ禍での活動は以前に比べると制限や気を遣う面も増えたかもしれませんが、「顔を合わせて交流する」ことの大切さを改めて感じることもありました。
- ✓ 参加者の皆さんが楽しんで帰られていたので、今後も感染対策をしっかり行い、継続していきたいです。
- ✓ 活動が再開していないほかの班の、1日も早い活動再開を期待したいと思います。

新しい地域活動のスタイル

洗足こども短期大学
准教授 板倉 香子

新型コロナウイルスがわたしたちの生活にもたらしたものの

コロナ禍の日常生活の変化による影響 (東京都社会福祉協議会報告書)

高齢者

フレイルの進行・
認知機能の低下

子ども

親以外の大人との
交流の減少

障害者

交流機会の減少

地域活動活動者

活動意欲の低下
活動機会の減少

地域活動への影響

三密(密集・密接・密閉)
の回避

集まらない

食事時の感染リスク
大勢での会食の自粛

食べられない

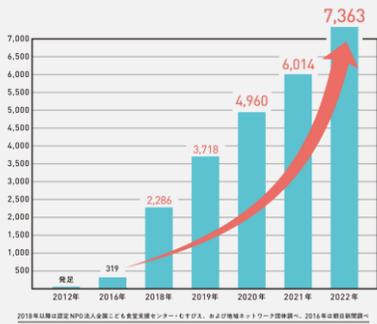
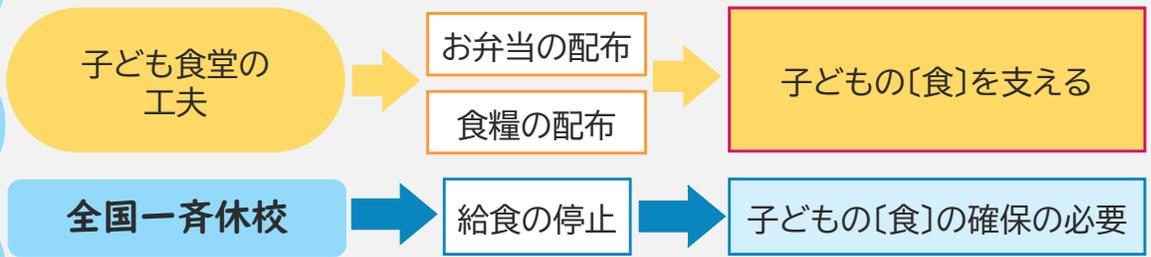
外出

食事

運動

会話

〔食〕にまつわる難しさと対処～子ども食堂を例に



子ども食堂の2つの使命

〔食〕の確保

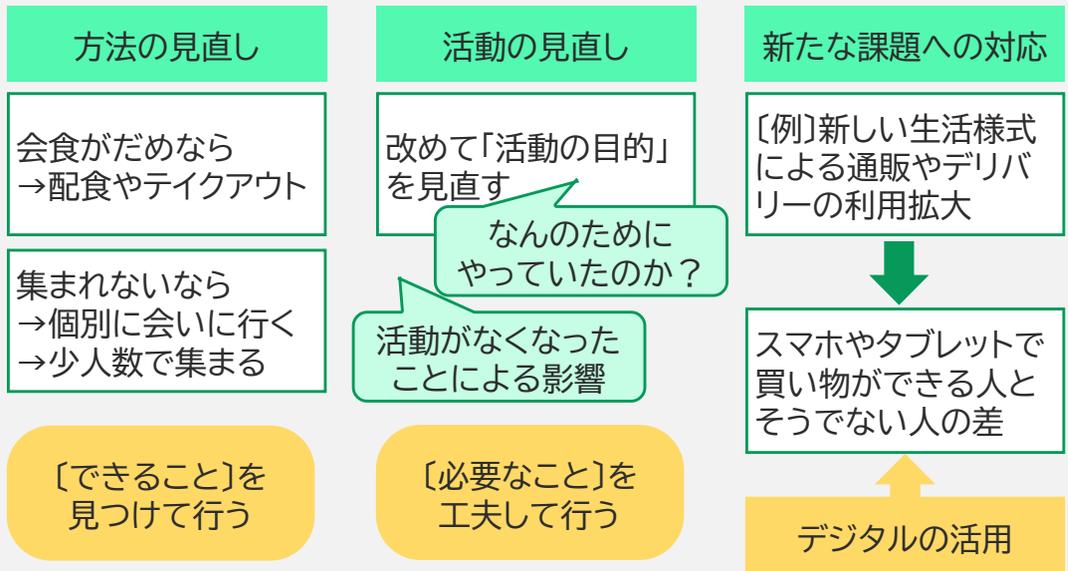
居場所/
つながりの確保

おなかもこころも
満たしたい
(だんだん・こども食堂)

つながりを確保するには？



変わる地域活動・・・ウィズコロナの工夫



変わる地域活動〔事例〕

豊中市

人との距離を縮める活動
⇒多くの活動が中止

往復ハガキで声を聞く

クイズを届ける活動

孤立のリスク

フレイルの進行
認知機能の低下

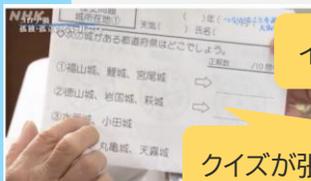
活動意欲の低下

川崎市〔すずの家〕

ご近所デイの活動
⇒緊急事態宣言下で休止

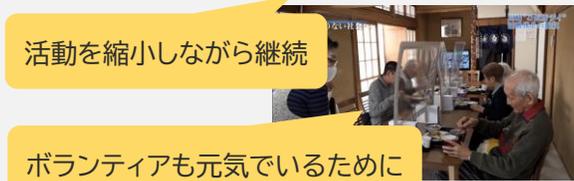
短時間だけ集まる

ボランティアが集まる場



インターホン越しに会話

クイズが張り合いになるという声



活動を縮小しながら継続

ボランティアも元気であるために

デジタルの活用

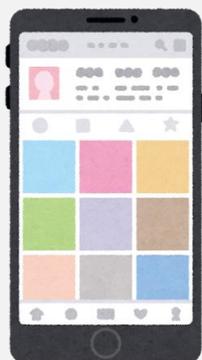
デジタルでつなげる

三密回避のため
集まらない

オンラインで活動継続

デジタルで情報発信

災害時の
安否確認にも！



高齢者がLINEのスキルを
身に付ける

デジタルでつながる

世代間交流の機会がない

SNSで世代間交流

大学生が高齢者に
LINEの使い方を指導

多様な世代がかかわる
機会やきっかけになる

他主体との連携

川崎市

福祉施設を拠点にした
食糧配布/支援活動

多様な主体から食糧
の寄付を集める

食糧をきっかけに
要支援家庭を訪問

共通点は〔地域〕

ボランティア

大田区

社会福祉法人による
フードパントリー

地域のひとり親家庭
や子ども食堂の支援

社会福祉法人ネット
ワークと企業の協力

住民

小平市

保育園を拠点とした
子育てカフェ

地域の保育園を活用
した子育て支援活動

大学・学生・地域住民
による企画と運営

企業

学校

「地域」を共通点にした多様な主体のつながり
⇒暮らしやすい地域づくりへ

福祉施設

わたしたちの地域(まち)づくりと地域活動

地域活動がめざすもの

人と
出会う

つながり
を
つくる

暮らし
を
つかむ



つながるための工夫・活動の展開

その人らしい暮らしを支える地域づくり